



「ごはんが食べられない・・・。」それ、お薬のせいかも？

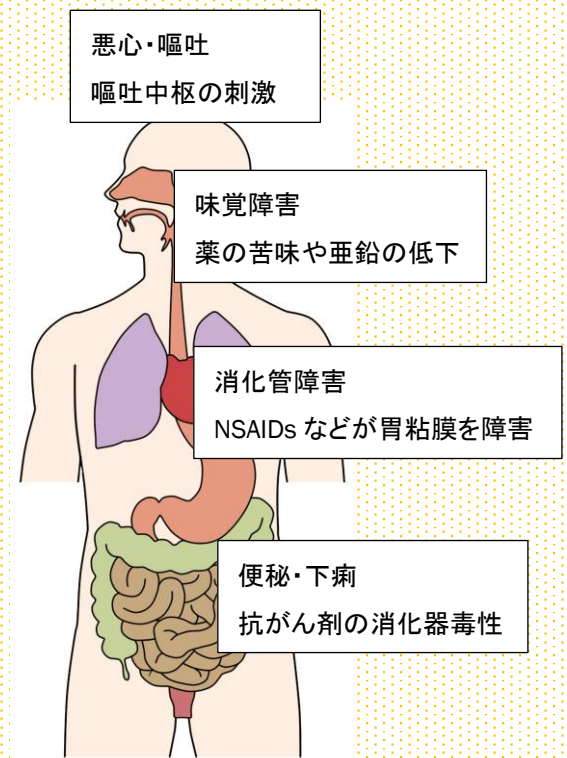
「最近なんだか食欲がない」「食事を残すようになった」など、患者さんの変化はありませんか？

高齢者や多剤併用（ポリファーマシー）の患者さんでは、「**薬剤性**」の食欲不振も隠れています。

1.副作用が原因となる薬剤

薬剤の副作用には食欲不振の原因となるものがあります。**中止**や**減量**、**他剤への変更**により改善する可能性があります。

代表例	〈消化管障害〉	NSAIDs、ビスホスホネート製剤
	〈悪心・嘔吐〉	オピオイド、抗がん剤、鉄剤
	〈便秘〉	抗コリン薬、オピオイド、抗がん剤
	〈下痢〉	抗菌薬、抗がん剤
	〈味覚障害〉	一部の睡眠導入剤など



2.薬の効きすぎが原因となる薬剤

高齢者や多剤併用の患者さんは、生理機能の変化などにより、薬物の代謝能や排泄能が低下することがあります。

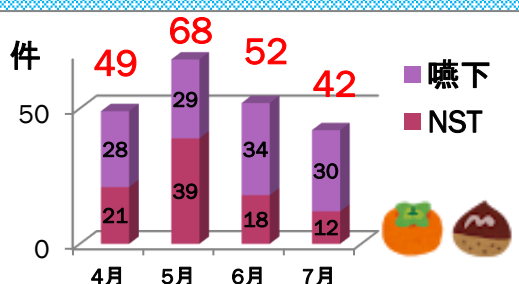
そのため、**常用量であっても薬の効果が強く現れる**ことがあります。

代表例	〈睡眠導入剤〉	プロチゾラム、ゾルピデム
	〈抗不安薬〉	エチゾラム、アルプラゾラム
	〈抗精神病薬〉	リスペリドン、アリピプラゾール
	〈降圧薬〉	アムロジピン、アジルサルタン

食欲不振の原因が今使っている薬に関係しているかも？と、心配される方は、ぜひ一度 医師・薬剤師にご相談ください。

担当:NST 専任薬剤師 西尾 貴之

月別栄養サポートチーム加算件数



NST専任メンバーに看護師が1名増えました！

7月に当院から宮本看護師が香川大学病院の40時間のNST研修に参加し、NST専任メンバーに仲間入りしました。これからカンファレンスや回診に参加してくれます。



現在、NST専任メンバーは3名の医師と13名のスタッフで構成されています。

これからも患者さんの栄養サポートに尽力していきます。